

3月在庫
36万ト減 215万トに
同期初の新米 200万ト割れ

農水省はこのほど、水稻うるち米の3月末における民間のコメ在庫を全国合計で215万トと発表した。前年同月末より36万ト（14%）少ない。減少幅は2月末と変わっていない。

3月末在庫のうち5年産は195万トで、前年同月の4年産に比べて22万ト（10%）少ない。平成24年以降の12年間の統計で初めて3月末在庫が200万トの大台を割った。1年古米の4年産は13万トで、前年同月の3年産よりも8万ト（38%）減少。年産を特定できない未検査米が7万トあるが、前年同月より6万ト（46%）少なく、ほぼ半減している。

全農・道県出荷組合など出荷段階の在庫は171万トとなり、前年同月より33万ト（16%）少ない。このうち5年産が163万トで、前年同月の4年産より22万ト（12%）減少。4年産古米の在庫は6万トで、前年比8万ト（57%）減少している。未検査米が2万トあるが、前年同月に比べれば3万ト（60%）少ない。

コメ卸など販売段階にある在庫は、前年同月より3万ト（5%）少ない43万トで推移。このうち5年産が32万トあって前年同月と変わらず。4年古米は6万トあるが、前年同月より2万ト（25%）少ない。未検査米の在庫が6万トで、前年同月を1万ト（17%）下回っている。

過去6年間における3月末の民間在庫（出荷段階と販売段階の合計）は、平均で247万トと算出できる。今年3月末の在庫は、これより32万ト（15%）少ない。

過去6年間の平均で4～6月に61万トが消化されており、このペースであれば、今年6月末の民間在庫は昨年並みの154万トと試算できる。ただし、年明け以降の月間減少量は▷2月31万ト▷3月29万ト——と約30万トペースの減少になっており、過去6年より大きいため、注意が必要だ。

5年産の産地別在庫は、①北海道産19万7400ト（前年同月の4年産比で15%減）②新潟産17万1500ト（7%減）③秋田産14万3900ト（7%減）④宮城産12万5200ト（5%減）⑤山形産12万2900ト（13%減）などで主産地が主体だが、前年よりも減少が目立つ。

4年産古米の産地別在庫は、①山形産1万5400ト（前年同月の3年産比10%増）②北海道産1万2700ト（60%減）③新潟産1万2400ト（39%増）④宮城産1万1100ト（38%減）⑤岩手産9000ト（42%減）——など主産地中心だが、バラつきが大きい。